

こもる

温泉では、まったく過ごすのもやっぱりいいもの。
手紙を書いたり、湯めぐりに大忙しになったり。
こもり方もさまざま、進化しています。

開湯600年。 極上の湯浴みに耽る

鉛温泉 藤三旅館

[岩手 / 花巻温泉郷]

色透明の湯が深さゆえに紫色にゆ
めく「白猿の湯」。湯船は地下に
るが、吹き抜けの大空間で開放的

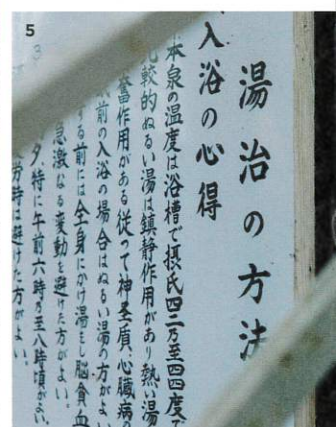
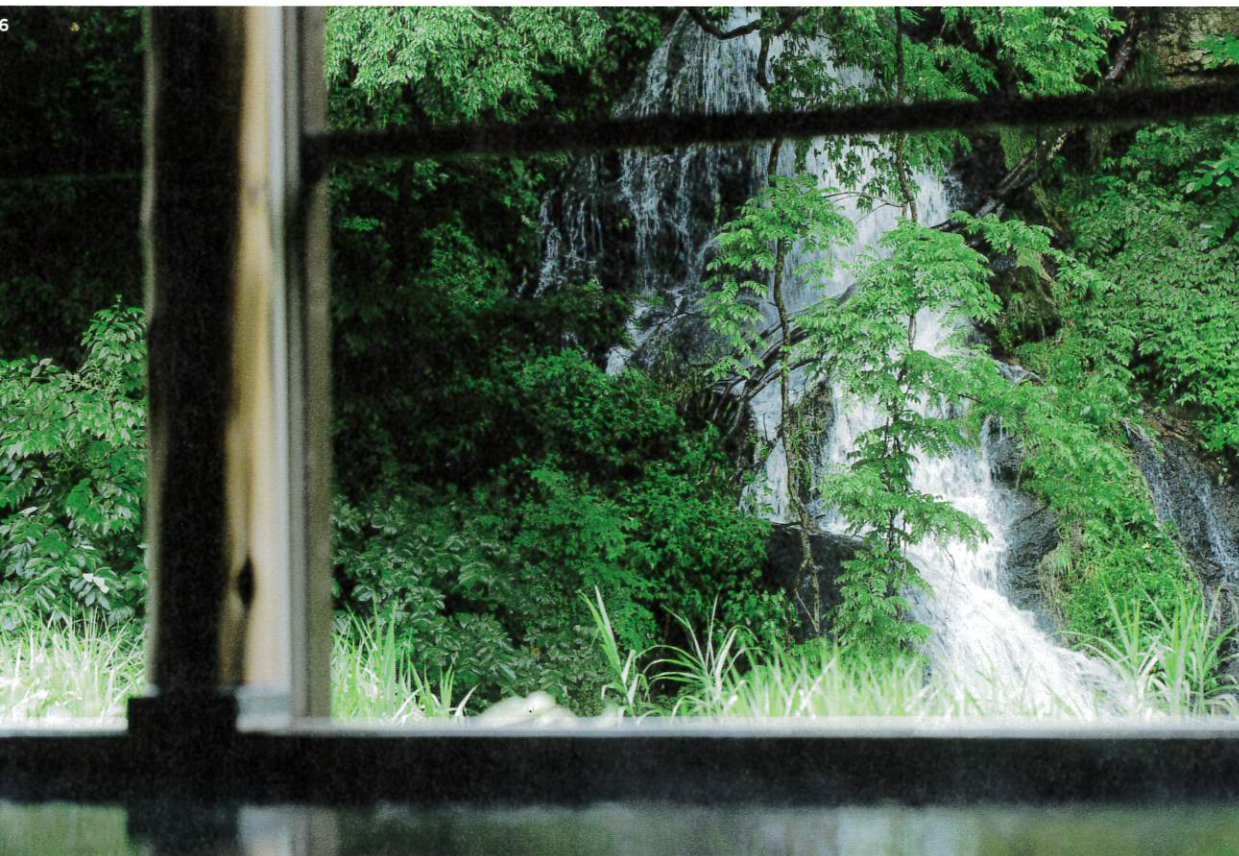
宮沢賢治の作品にも登場。
建物は築80年以上の木造建築。
『海街diary』のロケ地にも。





こもる

深い湯にとっぷり浸かる、愉悦の時間



歴史を感じるガラスや木の窓枠を残しつつモダンに新設した「ラウンジ藤時 fu ji」。15:00~18:00は¥1,980でフリーフロー、19:00~22:00はバーラウンジになり、旅館のすぐ下を流れる豊川を眺めながら湯上がりの喉をうるおせる。2・3 クラシックな温泉旅館の風情が濃厚に漂う木造三階建ての本館。別館にはベッドルーム(利用は2名〜)も。4 アメニティバーで最適サイズの浴衣をチョイス。5 開湯は600年以上前。クセのないやわらかな肌あたりで古来より「薬湯」として親しまれてきた。6 山の清水を集めた白糸の滝が渓流に落ちる景色を間近に眺める「白糸の湯」。



1 サウナの後は滝を見ながら外気浴&森林浴。2 源泉は5本あり、高温と低温の湯をブレンドして温度調節。シャワーの湯も加水なしの源泉という贅沢さ。



絶景、美食、旅の目的はいろいろあれど、頭を空っぽにして、ただひたすら湯に耽るためだけに訪れたい宿がある。開湯600年以上という鉛温泉が湧き出るのは、木々に埋もれた溪谷の谷間にぽつんと建つ一軒宿。あたりには店どころか民家も見当たらず、散歩道もない。退屈する？なんて心配はご無用、だってここには極上の湯がそろっているから。

4つある湯処はすべて源泉かけ流しで、名物の「白猿の湯」は足元から新鮮な湯がぽこぽこ湧き続ける全国でも希少な足元湧出温泉。ただし「白猿の湯」は基本混浴なので、宿にいたら、入浴時間の時間割を眺めつつ作戦会議(脳内)を始めよう。「白猿の湯」は日に3度、女性専用切り替わる。であれば、夕方まで入れる「白糸の湯」で汗を流し、軽くお酒を飲んで昼寝して。「白猿の湯」は夕ごはんの後に、終日女性専用がある溪流沿いの「桂の湯」は深夜に行こうか、朝風呂は……とけつこう忙しい。でもワクワクする。

日本一深い岩風呂という「白猿の湯」は水深1メートル以上の立ち湯。小柄な女性なら顎まで湯が迫り、深さゆえのやわらかな水圧と重力から解放される浮遊感、圧倒的な湯力が全身を押し包む。ぬるめの露天で満天の星を眺める「桂の湯」に、熱めの湯とサウナで覚醒する「白糸の湯」、温度や水圧の違いで異なる肌あたりを楽しみつつ、心地よく疲れたらせせらぎを枕に眠り、起きてまたとっぴりと湯に沈む。宿から一歩も出なくとも強く満ちる解放感に包まれて、身も心もうるおう旅へと昇華する。


売店のある旅館部のほか自炊可能な湯治部、露天風呂付き客室の別邸も併設。4 気取らずあたたかみのあるもてなしが待っている。5 ひとりステイは本館木造の天井が高い和室。溪流と四季で移ろう木々の眺めが楽しめる。6 夕食は地元の名産・花巻白金豚のしゃぶしゃぶを。ひとりでも部屋食できるのが嬉しい。



湯温泉 藤三旅館
 ③岩手県花巻市鉛字中平75-1 ☎0198-25-2311 ④36
 ひとり料金/1泊2食付き¥17,900〜 ひとり対応/繁忙期を除く
 通年可 ⑤JR新花巻駅よりバスで約55分、花巻駅よりバスで約40分、
 各駅より無料シャトルバスを運行(1日3便)
 ⑥DATA▷p.089

花巻市は旅行前・旅行中のふるさと納税を実現する「旅先納税®」を岩手県内の自治体で初導入。藤三旅館でも適用されます。詳細はp.096へ





美しさの本質を考え、感じる

感情と向き合い、想いを綴るひとときを。紀州手漉き和紙「保田紙」のオリジナルレターセットはおみやげにも。